

## 職場体験 感想文コンクール2024

タイトル	新中ハローワークを通して	事務局	119
学校名	新庄市立新庄中学校	氏名	古澤 泰心 <small>ふん</small>

新庄開府400年。その節目に向けて、総合的な学習の一環として行われたのが新中ハローワーク。私が訪問した事業所は「北陽オートサービス」というところだ。

この新中ハローワークでは、職場体験というより、その事業所の社員として働くという形になっている。だから、エントリーシートを書き、面接を受け、合格してやっとその事業所に行くことができる。私はそんな経験を一度もしたことがなく、エントリーシートの「あなたにとって働くとは？」にかなりの時間がかかってしまった。だが、大人としての自分を作り出し、人間関係を育むという考えを持つことができ、新鮮な気持ちになった。

なぜ私がこの事業所を選んだかという、昔から車が好きで、私の夢の一つに車の整備士があり、夢を叶えるための一歩としてのチャンスだと思ったからだ。

8月5日。8時から17時半の1日間で、短い体験時間ではあったが、私は事業所にワクワクして行った。最初に、社長の中山さんが1日のスケジュールや作業場の案内をしてくださった。この北陽オートサービスは、車の点検整備はもちろん。車の保険、中古車の販売など、車関係のことをオールマイティにやっているようだ。つなぎも用意してくださり、本当に社員になったように感じた。

今日やる仕事のミーティングをし、まず初めに洗車を行った。高圧洗浄機で車体の汚れを軽く落とし、スポンジと洗剤を使って洗う。その後、また高圧洗浄機で泡と汚れを拭き上げるという単純な作業だ。ただ、奥が深いと感じた。拭き上げ方や洗い方、何か一つをとっても工夫できる場所があった。

次にオイル交換を行った。車をジャッキに乗せるのだが、そのジャッキが1トン以上ある車を成人男性の身長ぐらいまで上げることができ、とても作業がしやすかった。さらに普段見ることのできない車体の下回りも見ることができてとても興奮した。オイル交換は、まずオイルが入っているところのナットを外していくのだが、最初がとにかく固くて苦戦した。ある程度まで外し、最後は指で少しずつ回していくのだが、いつナットが取れるか分からなくて、エンジンを止めたばかりのオイルは熱いと聞いていたので、下手なホラーゲームよりもずっと怖く感じた。

エンジンチェックランプが点灯したシトロエンというフランスの車の点検が終わり、何か不具合がないかを確認する試走に同乗させていただいた。タブレット端末を車に繋ぎ、異常がないかを調べながら走る。私は、今時そんなことができるのか！ハイテクだな！と思った。人生初めての外車だったのだが、すごく静かで振動が少なかった。少し荒れている道路でも、段差が全然気にならないのが助手席でもわかるほどだった。シートも柔らかく、長時間乗っていても、多分苦にならない。一度は外車に乗ってみたいと思っていたが、その願いが叶ったのでとてもうれしかった。

昼休憩でお弁当を食べるために椅子に座った瞬間、ずんと体が重くなるような気がした。かなり汗をかいていたことに気づいた。午前だけでもこれだけ疲れる仕事なのだと感じた。私は洗車とオイル交換ぐらいしかなかったが、これよりも重労働をしている作業員の方々は本当にすごいと感じた。

午後になり、また洗車などの手伝いをしていたのだが、ついに私にも大きな仕事 came。それは、タイヤとブレーキの取り付け、取り外しだった。まずタイヤは、持てないほど重いわけではないが重く、空気圧で動く業務用のインパクトレンチもずっしりとしていて、片手でずっと持っているとな筋肉痛になりそうだった。だが、様々な知識を教えてもらったので、自分でタイヤ交換ができるようになっていた。でも、自分の手でやって何か起こってしまったら嫌なので、しばらくはお店に依頼すると思う。ブレーキは、オイル交換のときと同じく、とにかく固かった。さらに、奥まったところにナットがあり、固さも相まってかなり疲れた。重労働だったのはこれぐらいだったのだが、事業所に行った日は夏真っ盛りで、屋外にあ

る作業場はとにかく暑かった。つなぎのチャックを全開にして、水や塩分チャージを摂取していなければ、熱中症は確実だと思った。1日中きつかったが、それ以上に楽しさ、面白さを感じていた。もう次の日も行って仕事を手伝わせてもらおうかなと思うくらいだった。新中ハローワークは、将来必ず役に立つ。本当に忘れられない一日となった。

この新中ハローワークを通して、自分は本当に車が好きだということを再確認できた。車が好きすぎて、もう親バカならぬ車バカの域に達していると思う。「働く」ことについて考えていたことを、さらに深められたのではないかと感じた。

最近、車社会の衰退を感じることもある。社長にインタビューした際にこんなことをおっしゃっていた。「最近の子は車に興味を持っていないと感じます。」私もクラスの友達で、車に興味を持っていたり、車が好きだったりする人をほとんど見かけない。このままでは車がなくなってしまうのではないかと思った。そこで、車がなくなったら人間社会にどのような影響があるのかを考えてみた。まず人命救助をする救急車、物流の要であるトラックなどの、働く車と呼ばれる車がなくなる。つまり、物流が止まってしまったり、助かるはずの命が助からなくなってしまうりする。この時点で人間社会の衰退は確定だ。さらに、私たちが移動する手段がなくなってしまう。移動手段なんて電車でもいいのではないかという人がいるかもしれない。だが、電車があまり整備されていないところでは、車でなければ柔軟な移動ができないのだ。このように挙げればきりが無いほどの影響がある。つまり、車社会の衰退は、人間社会の衰退そのもの。大げさに言うと、車がなくなったら人間社会がなくなってしまうのである。

私は将来車関係の仕事に就き、車を通じて人間社会を育めるようになりたい。そして、多くの人が車に興味を持ち、私たちの生活が車に支えられているということを実感してほしいと思った。